

- ・川の流れ方がよくわかりました。土地の低さや川の堤防が一番高いなんてとてもびっくりしました。
- ・ポンプの音（運転中のポンプが動く音）が、思ったより大きくて、耳がぶっとぶかと思いました。他にも「へえ～」とか「そうなんだ」と思うことがたくさんありました。

## 8 先生からの手紙より

10月25日の見学に際しましては、お忙しい中、丁寧に対応していただき誠にありがとうございました。

子供たちは大きな排水ポンプにびっくりしたり、川から除塵機ですくいあげられるごみの多さに驚いたりしていました。また、ポンプや排水について子供たちに分かりやすくせつめいしていただき排水機場の役割についても理解することができたようです。今ある素晴らしい田んぼも昔の人たちの努力の結果であることを今回の見学や学習を通して理解させたいと思っています。

## 9 ま と め

一般見学者から「最近の異常気象による集中豪雨に対応できるのか」「新潟大停電のときは大丈夫だったのか」など、最近の新潟県における災害からの質問が多々あり、見学会を通して施設の重要性を改めて感じ、また、この両排水機場がなかった頃の町や土地の状況はどうだったのか、施設完成後どの様になって行ったのかを見学を契機に小学生や一般の人にも分かりやすく、丁寧に説明できればと思っています。

今後とも見学者を積極的に受け入れPRをしていきたいと思っています。

# 山古志池谷地区からの贈り物

長岡地域振興局農林振興部農村計画課

## 1 はじめに

とある機会に恵まれて、旧山古志村池谷地区の方々とお付き合いをすることになりました。そうあの『棚サポ』です。私自身、棚サポには今まで参加したことがなく、まして企画まで行うとは思っておりませんでした。

池谷地区では地震前34世帯100人の住民が、今では12世帯29人と7割も少なくなっていました。山から平場へみんな降りてしまったようです。

そんな池谷地区の区長さんに『棚サポ』の話を持ちかけた時、「村のもん、みんな喜ぶよ。元気な俺たちの姿を見てください」と二つ返事で了解をもらい、また、区長さんは何とも



青木区長さん

屈託の無い笑顔で「おらんとこは限界集落の見本だよ。」と笑って語っていました。

そんな池谷の方々と1年以上お付き合いをして、大切な贈り物をいただいたような気がします。

## 2 ある研修会で

今年3月の研修会で『人口減少時代の地域づくり』と題した熊本大学の徳野貞雄文学部教授の講演を拝聴することができました。先生の講演は痛快で「私はヒトをベースに農業全体を研究している。今の行政は農地・技術を主として考えている。ヒトという概念が欠けているなかで農村振興やら多面的機能の発揮などというのはとんでもない話。過疎解消を考えるなら娘を離婚させて家に戻せ。子供を戻す施策を考える。“限界集落”は失礼な言い方、農家のやる気を損ねる。農家の出戻りは実家に入るがサラリーマン世帯の出戻りは実家に入らない。今の施策は農家、農村を馬鹿にしている。現実、農村は都会より豊かな暮らしをしている。」というものでした。



震災前旧山古志村の風景

50年ほど前までの日本は、自給自足に近い生活で、全国どこでも“にぎやかな農村風景”を観ることができたそうです。大きな変化は昭和30年代の高度経済成長期で大多数の人々が大都市に吸収され今まで農業をしていたヒトが“消費者”に変わってしまいました。ここから農村の過疎化が始まったとのこと。

今、都会は物が豊富で便利で、一見ゆたかに見えますが、独居生活者が多く、人間関係も希薄でゆたかとは言えない生活をしているようです。農村を出て行った元農家の大人達やその子供世代が田舎に憧れている今の状況は、ヒトの回帰本能のような気がします。

## 3 池谷地区での活動

棚サボは『地域の方々だけでは維持していくことが困難になってきた棚田での作業をお手伝いできないか』との発想から設立されたと聞いておりますが、この池谷地区においては、おこがましい話ですが、我々



棚サボの田植え

がそこに行くことそのものが地元の方々に勇気と元気を与えているようです。

活動の際には、地元の方々が食材を持ち寄り、大鍋と野外で使う大きなガスコンロでおいしい煮物をたくさん作ってくださいました。おそらく今でも慶弔時に自宅で料理を振る舞う習慣があるため、手際よく準備が出来たのでしょう。これも農村の伝統文化なのかもしれません。



おいしいお昼の準備



池谷の牛の角突き

## 4 贈り物

池谷地区の方々、そして農村風景との触れ合いをしていくうちに、何だか自分自身、イライラ感が薄れ、妻とのけんかも少なくなりましたし、子供をしっかりとつけることも少なくなりました。本来のヒトの本能を呼び戻し、穏やかな気持ちになったようです。

棚サポでお手伝いをしているつもりが、そんなことを考えさせる『贈り物』をいただきました。

### 調整室だより

#### トキの野生復帰に向けた取り組み

佐渡島内では、今年度秋の試験放鳥及び平成27年の小佐渡東部地域での60羽定着に向けて、様々な取り組みが行われています。新潟県では、平成16年4月にトキ野生復帰推進本部を設置し、新潟県トキ野生復帰推進計画を策定しています。農地部でも、トキの野生復帰に必要な餌場を確保するため、ドジョウなどの生き物が住める田んぼや水路の整備を行っています。

今後も、トキの舞う里を目指して、積極的な取り組みと情報発信をしていきます。

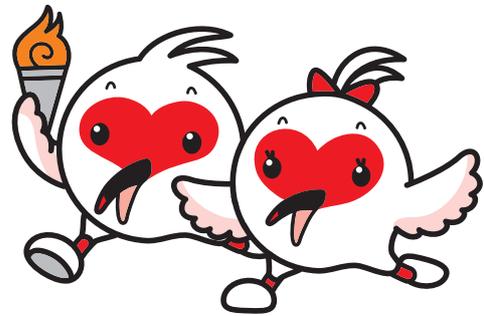
#### 原稿募集中です！

編集局では原稿を随時受け付けています。技術系の情報だけでなく、事務系の情報もドンドン発信していきたいと考えていますので、皆様の積極的な投稿をお願いします。

担当：農地管理課総合調整室 事業調整担当

T E L ● 025-285-5511 (内3088) F A X ● 025-285-3787 E-mail ● ngt070010@pref.niigata.lg.jp

えちご田園通信 ● <http://www.pref.niigata.jp/nochi/denen/index.html>



トキめき新潟国体マスコット

トッキッキ